

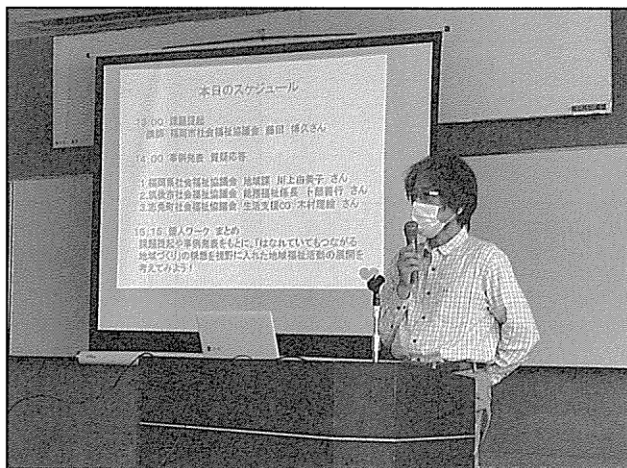
# 地域福祉活動職員の

# ま な こ

## 地域福祉活動推進のために

No.89

2021年 3月発行 福岡県地域福祉活動職員連絡会



【感染防止に配慮した「はなれていても つながる地域づくり」について考える】

「コロナ禍で社協に求められる 地域福祉の在り方について学ぶ」

講 師 福岡市社会福祉協議会  
地域福祉部長 藤田 博久 氏

報 告 福岡市社会福祉協議会 倉田 昌親

と き 2020年11月12日(木)  
13:30~16:30

と ころ 春日市ふれあい文化センター

### 「見守り」や「居場所」の 意義を今一度振り返る

地域福祉の大きなテーマである「社会的孤立の解消」は、社協のミッションのひとつである。しかし、コロナ禍においては、感染拡大防止の観点から地域福祉活動を控えようと捉えがちであり、その孤立は一層広がる傾向にある。人間関係が希薄化しやすい今だからこそ「見守り」や「居場所」は必要であり、感染予防に配慮しながら住民と社協がアイデアを出して活動に取り組む必要がある。

講話のなかで特に印象的だった講師の言葉は、「コロナ禍で訪問活動が必要か?と問われると、私は必要と思う。その理由として、訪問活動の休止に合意することは、その活動を不要不急の活動として社協が認めたことになる。よって、対面以外の手法を含め、何らかの形で活動を継続することが必要になる。」というものだ。

新型コロナウイルス感染拡大防止に気を取られ、コロナウイルスが及ぼす社会的孤立や肉体的・精神的リスクを見落としがちな現状においては、地域福祉の意義について原点に戻り、コロナ禍での活動の在り方について検討を重ねる必要がある。

### コロナ禍での 地域福祉の推進

地域の現状を把握するため、福岡市社協では、市・区社協のコミュニケーションソーシャルワーカーの情報共有会議「実践力強化会議」を開催している。そのなかで、新型コロナウイルス感染予防に配慮した地域の取り組みを共有し、その情報を「ミニユニティソーシャルワーカー」から各校区社協へ発信している。

また、収集した地域の取り組みの情報については、2P表のとおり取り組みの「性格」と「リスクの分類」の二項目に分けて集約している。その理由は、地域によって活動の中止や再開に至った経緯等が異なり、単に別の地域の事例を集めるだけでは活動の波及や普遍化に繋がりにくいからである。

具体的に、なぜ今まで止まっていた活動が動き出したのか、その時のキーパーソンは誰だったのか、活動再開時の課題、反対意見とその合意形成過程など、その活動がどのような視点に基づいて行われているのかを整理しながら情報収集を行う必要がある。

コロナ禍における地域福祉活動の推進は感染予防対策を十分講じた上で、各校区において実際に活動に繋げることが出来るよう、効果的に情報収集や整理を行う工夫が必要だ。

## はなれてつながるアイデア・地域での取組みの分類

項 目	取 組 み 内 容 例	主たる対応するリスク		
		肉体的	精神的	社会的
①3密を避けた体操・運動・散歩・外出を促す活動	●公園などでラジオ体操やウォーキングなどをする青空サロン、インターネット等を活用して複数人で行う体操、放送を流し・時間を決め・同じ時間に・玄関の外に出て行う体操、お散歩スタンプラリー 等	○		
②肉体的健康の増進を図るツールを提供する活動	●健康体操のライブ配信、健康体操DVDや、フレイル予防の体操や脳トレ・生活不活発病の恐ろしさを伝えるリーフレット等の配布、テレビを見ながら体操する番組情報一覧の作成・配布 等	○		
③対面ではないコミュニケーションを促進する活動	●電話やテレビ電話による話し相手、手紙、定期的なお便り ●オンラインのつどい・居場所づくり		○	
④不安の緩和につながるアプローチを工夫する活動	●コロナ感染予防やリスク啓発パンフレットの配布 ●「コロナうつ」に対抗する方法の周知 等		○	
⑤楽しんだり、リラックスできるプログラムを提供する活動	●家庭用栽培キット、準備しているサロンプログラムの材料をセットにして自宅で製作できるよう届ける、メンタルに不調をきたさないコロナ情報への接し方や、リラックス練習(呼吸法など)のすすめ 等		○	
⑥自分の存在認知や自己有用感を高める活動	●医療機関や介護施設に使い捨てマスクを寄付する活動・キャンペーン、マスク作成マニュアルの配布・手作りマスクを校区内高齢者宅へ郵送やポストイン、小学校に配布 等		○	
⑦互助等により生活を防衛する活動	●コロナでホームヘルパーによる支援が滞ることを想定し、民生委員でもある町内会長が有志を募り、ゴミ出しなどの簡易なボランティア活動を開始、お買物配達サービス緊急社会実験 等			○
⑧気になる人を見守る活動	●サロンやネットワーク対象者に対する「お元気ですか?」電話で見守りキャンペーン、サロンメンバーによる回覧板を交換日記のように回しての・往復はがきを活用しての近況確認、区社協によるニュースレターの作成・配布、インターネットのツールを活用してのビデオ電話による安否確認、オンラインを設定するキャンペーン 等			○
⑨注意を喚起する活動	●コロナ関連詐欺への注意喚起、医療関係者や感染した人に対して偏見や差別的な扱いが起きないようにする注意喚起、震災など困難を乗り越えた人の経験を共有することによる前向きなイメージの醸成 等			○
⑩地域団体がリードし、コロナ対策を進める活動	●校区自治連合会、校区社協、校区危機管理部といった地域組織が、コロナ対策を主導し、住民の連帯を促し、地域自治、住民自治を進める活動 等			○

◆交流活動の基本型は、「ちいさくあつまる」。その応用型は、「ちいさくあつまるをつなげる」です。

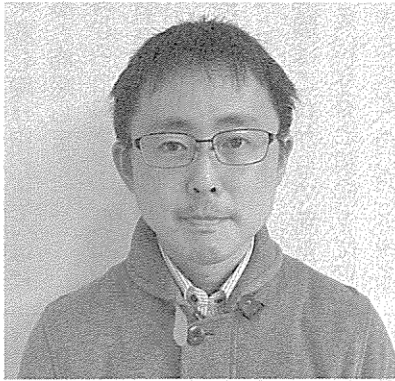
製作者：福岡市社協 藤田氏

### 「コロナ禍における福岡県内社協事業についての報告及び実践事例報告」

研修の中で、コロナ禍における福岡県内社協事業の動向及び具体的な実践事例報告を3名の方より発表いただきました。研修参加者からも「具体的な事例を通して、学びを深めることができた」「コロナ禍の地域福祉活動を展開していくためのヒントや気づきとなった」との声が聞かれました。発表いただきました3名の方と報告の内容についてご紹介させていただきます。



福岡県社会福祉協議会  
地域課 川上由美子さん  
好きな食べ物：白ご飯  
コロナ禍における福岡県内の  
社協事業についての報告  
(令和2年7月県社協とりまとめ分)



筑後市社会福祉協議会  
総務福祉係長 卜部善行さん  
好きな食べ物：カレー  
実践事例報告  
ICTを活用した取り組み  
～コロナ禍だからできた事～



志免町社会福祉協議会  
生支援コーディネーター 木村理絵さん  
好きな食べ物：果物  
実践事例報告  
コロナ禍の志免町社協の取り組み  
～お手紙・メッセージカードを  
活用した見守り活動の実践～

当日の資料につきましては、発表者のご厚意により記載のURL及びQRコードにてダウンロード(期限:2021年5月16日まで)し閲覧することができます。

URL <https://xgf.nu/Hd1G>



### 研修を終えての感想

春日市社協

欽先 和彦

コロナ禍における地域福祉活動の進め方を福岡市社協の藤田部長の概論、事例報告者3名の発表を聞いた後、それを受けてのワークショップでした。藤田部長からは、コロナ禍の現状における地域福祉のあり方に対して、新たな視点からの考察と緻密な分析を実際に福岡市社協内で実施検討し、そこから見えるもの、全国的な活動についてご講義いただきました。3名の事例発表についても、県全体の状況と市町村の色が出た活動の紹介とそこからの新たな展開というものもあり、「現状」と「展望」ということで言えば、非常に内容が濃く、多くの情報を得ることができました。

そこからのワークショップは「密にならないことに配慮しながらでしたが、参加者お互いが話し合う姿を見てみると、久々の情報共有で楽しそうでありそれは『繋がり』を感じられるように見えました。

この様子から私なりに感じた「はなれていてもつながる地域づくり」は、やはりこのような状況であってもお互いに関わることを求めている。そしてそ

の関わりはどのような距離があっても成立するのではないかと感じました。それは、今まで私たちが進めていた地域福祉と何ら変わらないと再認識させられました。

では、「コロナ禍」をどう捉えるかですが、地域福祉活動の推進においては、今こそ状況を科学的・客観的にとらえるとともに、私たちはこれを主体的に考える必要があると思います。そのように考え抜かれた活動が結果的に「はなれてもつながる」地域活動になるのでは、と思います。

大刀洗町社協

伊良部 冬未

私は、福祉の分野で仕事をしたことがなかったため「ふくし」って何だろう、「社協」ってどんな組織なんだろうと入職時は不安な思いだったことを覚えていきます。

また入職したタイミングで新型コロナウイルス感染症による緊急事態宣言が重なり、地域の様々な活動が中止となりました。「地域に向くことができないう」と人と会ってはいけないというターゲットを切ったことで、本来の社協の事業や地域の活動が入職後約2か月はよく分からないまま過ぎました。

今回の研修では、新型コロナウイルス感染症は、元々困窮している方や社会的孤立がある方がより困窮や孤立し

てしまったり、地域に出ている高齢者が外出する機会が減りフレイルに陥ったり、コロナの差別や偏見など負の連鎖を生み出しているとのことでした。特に筑後市社会福祉協議会の卜部さんの「やれないのではなく、やらない理由になつている。」という言葉にはハッとさせられました。このような状況だからこそ、社協が長年培っていた、「つながり」「支えあい」ということが途絶えてしまわないように、はなれていてもつながることを考案し取り組むことは社協の課題であると痛感しました。

よく「1年目からコロナで大変ね。」と声をかけられることがあります。しかし、今回のコロナ禍は社協の役割、事業の趣旨や目的と向き合う貴重な時間と体験になったと思っています。

今後、この経験はこれからの新たな地域福祉の考えになると前向きに捉え、今地域にできること、自分にできることを考え、社協職員として適進していききたいと思えます。

柳川市社協

藤木 健裕

初めに、福岡市社協地域福祉部長の藤田さんから、福岡市社協の現状を基にお話いただき、「コロナ禍で様々な「つながり」が希薄になっている昨今、社会的孤立の防止が社協の重大なミッションとなっている。従来のような地域

福祉活動が難しい中、「はなれてつながる」アイデアを提案していくことが求められている。」とした課題提起が行われました。

続いて、3名の方から事例発表をいただき、福岡県社協の川上さんから県内社協のコロナ禍における地域福祉活動の実践事例について、筑後市社協の卜部さんからICTを活用した取り組みや、生活困窮者支援と感染拡大防止を抱き合わせた新たな取り組み等について、志免町社協の木村さんから配布物を通して住民主体の見守り活動について報告が行われました。

研修の最後には、ワークを行い、コロナ禍における地域福祉活動の展開について、受講者の皆さんと意見を交わし、今後自身の社協に必要な取り組みについて検討しました。

本研修の中で筑後市社協の卜部さんが仰った「コロナができない理由」ではなく、「やらない理由」にならないように」という言葉を胸に刻み、住民任せではなく、社協職員自身が主体的に考えたいので、「はなれていてもつながる地域づくり」を実践していきたいと感じました。



## 【令和2年度中堅社協職員研修委員会 研修事業】

### 「コロナ禍における 社協活動の方向性」

講 師 九州大谷短期大学 福祉学科  
教授 中村 秀一氏

と き 2020年12月6日(日)  
13:00~17:15

ところ 筑後市総合福祉センター

### 社協の特性や 理念の継承

新型コロナウイルス感染症により生活の在り方・地域の在り方が大きく変容しています。それによって生じる生活困窮や生活課題・地域課題に、「コロナ禍だから出来ない」で社協はいいのでしょうか。こういったことから社協は社協の役割を果たし、今ある課題に取り組んでいく必要があります。

今回の研修では、福岡県内社協の活動の状況を県社協地域課川上さんより報告をいただき、「新型コロナウイルス禍の社協の地域福祉活動を考える」と題して、九州大谷短期大学教授中村秀一先生より講演いただきました。

今日のテーマは「超高齢社会と複雑化した生活支援活動」としていますが、今一番悩ましているのが特例貸付ではないでしょうか。1年分の申請が1カ月でという状況になっており、動員して貸付事業をやらなければならぬ。でもそれが社協の本当の役割かというところ、どうなのでしょう。経済的な課題の中に隠れた生活課題を知るために、我々はツールとして使ってそれを発見するというこ

とをしないと、対症療法で終わってしまう。今、地域福祉は社協の専売特許と言えるでしょうか。行政は敵とは言いません。今回の生活福祉資金だって、生活課題を把握できるきっかけがあっても使わないという考え方だってあるわけだから、この行政との関係を、社協を運営する側として、住民に目を置いてる我々が、中堅職員がどう考えるかということがものすごく大事かと思えます。

県社協時代に残業していると上司から中洲によく呼び出されました。その場では上司のお腹の中に持っている構想を教えて下さるんです。スーパービジョンです。これ即ち先輩方が思っていることを職場内でどれだけ共有できるか、伝えられるかという職場内共有がなされているのかということがものすごく大事だと思えます。社協はすごく大きくありません。大きいのがゆえにいろんな部署ができて、地域にいっぱい出ているはずなのに、今の部署の仕事さえまわしてればそれでよしとして帰っている人が多いみたい。これは僕が見たわけじゃなく、そういう部署の違う人たちに地域福祉の話をしてくださいという市町村社協からの依頼がたくさん来るからです。だから僕は、社協の特性や理念というも

のがきちんと継承されているんだろうか。行政が右ですよ左ですよ、もうあなた達達いりませんよ、社協はちよつと休んでください。NPOとか地域包括を主でいきますからと言つて、そつちに力を入れて、そういう場面場面で振り回されていると思います。

### 自立と依存

菅総理大臣の所信表明演説で地域福祉のことを言いました。今からは自助、共助、公助、そして絆という言葉方をしました。互助が抜けているんです。では絆のイメージって何ですか。自助には限界があります。限界が出たときに本人が認識してない生活の課題が出てくるわけです。自分で出来ないことを誰かにお願ひしますということなんです。支援する側でも手を上げない。隣の人を手伝う体制は整っているんです。助けてくださいという人たちはどちらかという自立的であり、助けてくださいというのは、自立の反対の依存ですよ。では、自立というものが何なのかと言つと、自分のことが何で

もできることが自立というこの間違った考え方を正しておかなければならない。自立と依存は一体的です。自立っていっぱいあるんです。そこを僕は、今回コロナで生活の立て直しができないということ、集中的に支援をしていかなければならない。自立というのは、全てのものが構成されて、人間的に豊かな自立でないと意味をなさない。仕事してお金だけもらって幸せかという、物足りませんよ。人と環境の間を調整するのが社会福祉です。でも今コロナの状況にあつて環境が人を支配してしまつています。我々は、人が環境を変えていく、変わらんでも人が環境と戦いながらやつていくということを忘れてはならない。なぜならば、今後生活問題がコロナによつてますます苦しくなっていくんです。コロナを理由に我々がやらないと、まあやつてらっしゃるでしょうけど、この生活の課題は益々助長されていくでしょう。これは必然的であるかと思えます。

### いかに創るか。 何を創るか。

社協の先駆的活動は国の政策に大きく影響、社協への期待と書いていま

すが、2000年にできた介護保険が始まったのは何ですか。超高齢社会になつていくということ、出来たんですよ。でも、2000年以前にもたくさん在宅サービスを受けなければいけない方がいたんですよ。それは誰がどうやって助けてきたんですか。地域の組織です。その地域の組織を誰が束ねたかという、それは社協でしょう。社協の実績といったものが土台にあるわけです。では、今回の地域共生社会というものは、それも社協の活動が評価されてやれたのか、作られたのか。または、社協は横に置いていてということで作られたのか。もう社協には期待しないということ、行政が地域福祉に入ってきたんです。全社協の考え方として、「あらゆる生活問題や福祉課題に向き合い地域福祉サービスの……」と書いてありますけどいかがでしょうか。国が何を言おうが行政が何を言おうが、これは中堅職員一人ひとりの想いと熱でね、培うべき問題だと思えます。そして、このコロナ時代にいかに喪失させないか。人の命もそうですね。しかし、喪失させない努力というものは、どつちかといえは予防的なものですね。これは絶対に必要なものです。しかしもつと必要なのは、いかに創るかということ、忘れていませんかということ。社協はここで

す。予防は行政でいいという考え方で  
す。基本的には、いかに創るか、何を創  
るか。金はないけどここで生きとって  
よかったという、自分らしく生きれる  
保障があるから安心。とかいう部分が  
あるかということ。個人の想いを  
どう作っていくかということ。生  
きるこの保障が脅かされている。生  
活環境の保障が欠落されている時代  
であるということは間違いない。だか  
ら我々で出来ること、どのような社協  
であるべきか。社協マン自体が問うて  
くださいということ。そして人  
に、支援に関われる仕事に誇りを持っ  
てください。幸せへの関わりです。

**住民主体を掲げる  
社協であれば…**

人の支援というけど、どういう立  
場で支援しているんですかというこ  
とを問うとかないといけません。支  
援される側と支援する側、どういつ  
た関係だと思えますか。これは立場  
によって全然違います。子ども・障害  
者・高齢者・生活困窮者・ひとり親  
家庭とか、これを相対的に言います  
と弱者と言われることが多いですね。  
では、それに対して支援者はどうで  
すか。強者ですか。そういう捉え方

はしてはいけませんね。同じ地域の  
中で支援する側とされる側に分けら  
れるということはばかばかしいこと  
ですね。こんなことしてたら人間と  
人間の間に、地域の間に分断が起こ  
ります。福祉は分断ではありません。  
統合でしょう。住民福祉の中でこれ  
は絶対やってはいけません。だから、  
福祉の対象はどんな人と言われたと  
きに、住民に教えるときに、社会的  
な弱者ですと教えることはとんでも  
ないことなんです。だから、支援す  
る側とされる側という短絡的な考え  
方で福祉を終わらせない。基本的に支  
援する側とされる側はイコールなん  
です。では社協はどうでしょうか。  
住民主体を掲げていく社協であるな  
らばここに力点を置いてみてはいか  
がでしょうか。社協内でこのような  
話をみんなやらなければならぬ  
と思います。特にここにおられる方  
が後輩を育成する上で、スーパービ  
ジョンをきちんとやってほしいです。  
社協マンとしてのスタンスを管理し  
てほしい。僕らの福祉教育って互助を  
どう培うか。互助ができれば共  
助なんかできませんから。だから本  
当の福祉を教えられる人材を、プロ  
を増やしていただくたいです。

**「まなこ」次号について**

次号の「まなこ」は、昨年3月末より始まった「生活  
福祉資金特例貸付」に関する特集を組みます。  
新型コロナウイルスの影響による経済的な支援の「環  
型」として開始された「特例貸付」ですが、当初の受付期間  
から数回の期間延長、条件緩和、更には再貸付と、本  
来社協が行っている生活福祉資金による世帯更生とい  
う目的から大きく外れ、申請者の殺到により社協らし  
い十分な支援が出来ないまま、違和感とシレンマを抱  
えながら業務にあたっているワーカーも多くいることだ  
と思えます。

特にコロナ禍にあつて他市町村社協との情報共有も  
出来ないまま、自社協内で悶々と業務を行っている職  
員にとっては、自分の考え方がどうなのかということさ  
え分からず、場合によってはこの違和感さえも感じてい  
ない若い職員もいるのではないのでしょうか。

そこで、この1年間、特例貸付に従事しながら思う  
ことや違和感、憤り、希望、取り組みの事例などを思う  
まま書いていただき、この「まなこ」において福岡県内  
や全国の社協職員に勇気をシェアできればと思います。

○市町村社協、都道府県社協問いません。専任・兼務、  
担当外の職員も問いません。

○文字数は特にありません。一言でも構いません。必要  
に応じて校正は行います。

○匿名で掲載しますが、福岡県内・外と社協歴だけ表  
記します。

○発行は令和3年6月中を予定しています。  
○投稿していただける方は、令和3年5月14日(金)ま  
でWordで大刀洗町社協池松までメールで提出を  
お願いします。

○投稿いただいたものに関してはできる限り掲載いた  
しますが、投稿者多数の場合は勝手ながら地職連役  
員会において検討させていただきます。

**《申込み・問合せ先》**

福岡県地域福祉活動職員連絡会  
(事務局：大刀洗町社協 池松)  
TEL:0942-77-4877 mail:kame@tachi-shakyo.or.jp

**編集後記**

地職連の役員に加えていただき、「まな  
こ」の編集を担当して早1年が過ぎました。  
初めての経験で、記事の集め方や校正のや  
り方などわからず締切に追われ、自分の力  
だけではどうしようもなくなり、先輩役員  
に迷惑をかけてしまったというお粗末な結  
果に反省しきりです。

まかされた仕事を完結するためには、き  
ちんとしたプランやスケジュール管理の下  
で、自らが積極的に動き出さなければ、何  
も進まないという当たり前のことができて  
いなかった自分に改めて気づかされた1年  
でもありました。

「常に謙虚な気持ちで、ひたむきに、そ  
して周りへの感謝の気持ちを忘れずに」と  
は、上司からよく聞く言葉です。その意味  
をかみしめながら「初心忘れるべからず」  
をモットーに、地域でも社協ワーカーとし  
て、日々精進して行きたいです。

上毛町社協 小林

**★発行者**

福岡県地域福祉活動職員連絡会

**★事務局**

〒830-1201  
福岡県三井郡大刀洗町富多819  
ぬくもりの館  
大刀洗町社会福祉協議会内 担当:池松

TEL 0942-77-4877

FAX 0942-77-6220

E-mail tachi-shakyo@kurume.ktarn.or.jp

URL http://www.geocities.jp/f\_chishokuren/